

With

ウィズセンター情報誌

2014

Vol.64

特集

ウィズフェスティバル2013開催特集



特集 ウィズフェスティバル2013開催!!

テーマ **自然体、支えあい バランスとって 一歩ずつ**

岡山県男女共同参画推進月間(11月)の行事として、「ウィズフェスティバル2013」が、11月8日(金)、9日(土)の2日間、ウィズセンターで開催されました。

盛り上げ隊のみなさんによる創作寸劇やクイズなど爆笑のオープニングイベントをはじめ、期間中は男女共同参画社会づくり表彰式、講演会、ワークショップ、バザーなど、さまざまなイベントが繰り広げられ、多くの方々で賑わいました。

オープニングイベント



「オー!」の掛け声も元気がよく、盛り上げ隊のあいさつ



15回目のウィズフェスティバル開催にちなんで数字の「15」にまつわるクイズを出題



くす玉も見事に割れ、フェスティバルの始まりです!



パネル展示等、多くの人に観ていただきました。



各登録団体から寄せられたメニューカードに見入る参加者



盛り上げ隊から元気づくひとことアピール

広報活動



平成25年10月3日、南方コミュニティハウスでの広報活動。寸劇で地域のみなさんへ参加を呼びかけました。

盛り上げ隊構成団体 ひとことアピール

ひとりで子育てをがんばっているお母さんたちを応援しています!日帰りバス旅行や交流会など親子でふれ合える行事や、就活のためのパソコン教室、母子福祉向上のための研修会なども開催しています。経験豊かな先輩、心強い仲間たちと一緒に活動してみませんか。「ひとり親のお母さんを元気にするぞ!!」 〈佐藤・中西〉

おかやま女性国際交流会では海外研修と国内研修を毎年、交互に行なっています。昨年はベトナムに行き、ハノイ、フエ、ホーチミンを訪れました。今年は3月に神戸で行われる「国際交流フェア2014」に参加する予定です。 〈万代〉

瀬戸内市邑久町で、平成4年から男女共同参画推進の活動を行なっています。会の有志で結成した糸あやつり人形劇団で共同参画啓発の人形劇をつくり県内各地へ行きました。今年のフェスティバルでは人形劇で防災をテーマにワークショップを行いました。これからも学習を重ねていけたらと思っています。 〈榎田〉

暴力を受けた女性と子どもたちが元気を取り戻して安心できる社会を目指して活動しています。DVは犯罪であり社会問題だということをたくさんの人に理解して欲しいです。そのために頑張ります!! 〈久保・小西(理)〉

平成9年に「岡山県女性のバス」に参加し、四国方面へ研修に行かせていただきました。あれから16年経ちますが、参加したメンバーとの交流が続いています。女性の人材育成の場としてとても貴重な研修に参加させていただき、感謝しています。 〈小西(貞)・根本〉

知的障がいを持つ人のスポーツ活動を応援し、社会参加へつなげていく運動をしています。平成26年は福岡で行われるナショナルゲーム(スペシャルオリンピックスの全国大会)に参加予定です。ボランティアは随時募集しています。 〈清水〉

盛り上げ隊メンバー

| 氏名 | 所属団体 |
|-------------------|----------------------|
| さとう けいこ 佐藤 恵子 | (一財)岡山県母子寡婦福祉 連合会 |
| なかにし くにこ 中西 邦子 | |
| まんたい ひさよ 万代 寿代 | おかやま女性国際交流会 |
| さかきだ ひとみ 榎田 瞳 | 邑久ライフフォーラム |
| くぼ さとみ 久保さとみ | NPO法人 さんかくナビ |
| こにし りえ 小西 理恵 | |
| こにし さだこ 小西 貞子 | 14期岡山県女性のバス |
| ねもと あつこ 根本 敦子 | |
| しみず いくこ 清水依久子 | スペシャルオリンピックス日本・岡山 |

記念講演

2013年11月9日(土)

「人生は8合目からが面白い」

講師：田部井淳子さん(登山家)



38年前、35歳で日本女子登山隊登攀隊長として、女性世界初のエベレスト登頂に成功。豊富な登山経験から、一步一步、一つ一つを学ぶ姿勢の大切さを明快な口調で語っていただきました。

一步一步の大切さ

テレビの番組で、アナウンサーとともに北アルプスを縦走するという番組を担当したことがあります。23日間の縦走は、さぞ辛かっただろうと思いますが、40～50センチの一步一步を積み重ねてきた結果にすごく感激してくれました。

富士山で同窓会!?

同窓会で富士登山をしました。福島県出身なので、同級生は誰も富士山に行ったことがなかったんですね。初めての登山が富士山、しかも70歳で…。それは無理、と思ったのですが、皆にトレーニングの報告をしてきてもらい、全員で富士山に登ることができました。



高校生と富士登山

「自然の中を歩くとこんなに元気になる。次世代を担う高校生たちを富士山に登らせたい!」と思いました。目の前で友だちや身内が流され、モヤモヤした気持ちを誰にも言えず、どうしていいかわからないという人がたくさんいたのです。昨年、登山初心者の東北の高校生と地元高校生が参加して、富士登山を行いました。正直、大変でしたが、集まったボランティア(ほとんど高齢者)の心意気に励まされ、万全の準備で臨んだ結果、全員が登ることができたのです。辛かった、途中で止めたかった。でも高校生たちは諦めないこと、そして一步一步が大切だということを感じてくれたはずです。

明日はこれがある!

自分だけの歴史を残しておきたいと思い、各国の最高峰に登ろうという目標を立てました。同時に「日常生活も楽しまなくては!」とシャンソンを習い、無謀にも一年後にコンサートを開きました。

「明日何をする?」ではなくて「明日これがある!」が大切。これからの人生、計画をしっかりと立てて、実行していきたいと思っています。

ユーモアを交え、歯切れよく、人生8合目からの生き方に多くの示唆を与えてくれたお話に、会場いっぱいの参加者から大きな拍手が送られました。



ハイキングでみんなが元気に

東日本大震災後、「東北応援プロジェクト」を立ち上げました。避難所暮らしの方々に「一緒にハイキングをしてみる?」と問いかけると「行ってみたい!」との返事が返ってきました。参加した人たちは一様にとっても感激してくれ、「避難生活で、どこにも行かなかった夫の顔つきがいきいきとしてきた」「津波ですべて流されたが、もう過去のことと思えるようになった」等々、たくさんの人たちから「来て良かった!」との声が上がったのです。

特別講演

2013年11月8日(金)

高校時代、運動中に頸椎を痛めた経験からスポーツ医学を志し、長年研究を続けてこられた成果をもとに、健康づくりの基本と日常生活における心がけなどをお話しいただきました。



講演 「自分にあった運動で健やかな暮らしを」

講師 つし ひろ あき
辻 博明さん(岡山県立大学名誉教授 工学博士)

運動をはじめる前に

健康に良いからといって運動に夢中になると、過度になる危険性があります。体の機能(運動器)は使いすぎではいけません。適度であることが重要です。体力に自信がある人ほど過度になりやすいので、常に適度な運動かどうかを見極めていくことが必要です。日頃使わない部位を工夫しながら使うことが「健康」への第一歩です。



健康づくりの基本

まず、自分の日常生活の改善策として活動していない時間を少なくしてください。座ったり、横たわっている時間を少なくし、立っている時間を極力増やすこと。私は、できるだけ椅子を使わず片足立ちを心がけるように実践しています。一日の始まりと終わりに、手足などの関節を動かし使った部位や痛みのある部位をケアしてください。まず「何かを始める」、その際に他人と比較しないことが大切です。テレビや雑誌の情報に惑わされないで気軽にできる自分に合った健康法を見つけましょう。

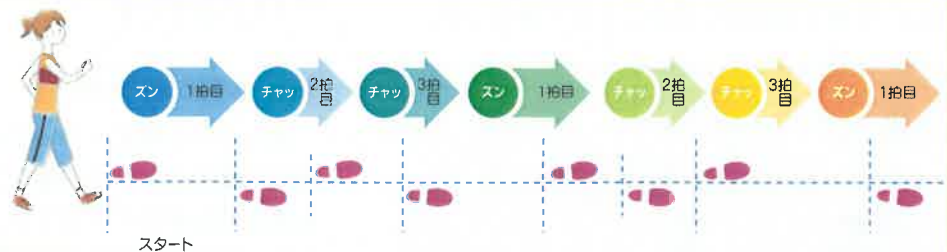
呼吸循環機能と脚筋力を改善するウォーキング

ポイントは、片脚支持の時に腰を高く保ち、重たい靴を履いて速く歩くとエネルギー消費が大きくなり、ゆっくり歩くとエネルギー消費が小さくなります。

「リズム歩行」 ショートウォーキングに用いるとエネルギー消費が活発になり、脚筋力を強くする効果があります。

- ・1拍目(ズン)は、アクセントをつけて力強く歩幅を広く足を前に振り出します。
- ・2拍目(チャッ)と3拍目(チャッ)は、1拍目の勢いで歩きます。

♪ワルツのリズムと同じ



三日坊主の勧め

必要な全ての運動を規則正しく行う必要はなく「三日坊主」を繰り返すことがポイントです。注意することは、強すぎる運動はしない、息づかいや脈拍のコントロールをしながらゆっくりとした動作で、長い時間を掛けて筋肉を使うと、支持力(体を支える力)が強くなります。そして、繰り返しの回数は、一度につき3~5回と少なくします。過剰な運動や速すぎる動作は局所負担が大きく障害の危険性が高くなるのです。自分のカラダだから、自分と相談、「自分にあった」運動量は自分自身で判断することが、健康な暮らしを続けるための秘訣です。

登録団体交流会

11団体27名の参加で和気あいあいと行われました。今年はアトラクションとして「笑いヨガ」を企画。岡山笑いヨガクラブの万代京央子さんを講師にお招きし、一般参加の方も含めて、楽しく笑いヨガを体験しました。カラフルなコスチュームに身を包んだ万代さんが登場すると、会場はパッと花が咲いたよう。自然と笑がこぼれ、息を吐いたり吸ったりしながら、10~20歳若返る秘訣を教えてもらい、笑いの効用を実感しました。

昼食タイムでは各団体が活動のPRを行いました。日頃の活動内容や今後のイベントなどを発表し、交流を深めました。

【交流会参加団体】

- ・岡山県交通安全母の会連合会
- ・岡山県退職女性教職員の会
- ・(一財)岡山県母子寡婦福祉連合会
- ・岡山市婦人防火クラブ連絡協議会
- ・おかやま女性国際交流会
- ・岡山地域ピーチの会
- ・邑久ライフフォーラム
- ・14期岡山県女性のバス
- ・スペシャルオリンピックス日本・岡山
- ・世界女性会議岡山連絡会
- ・手づくりミュージカル「ドラネコ座」



ウィズセンター登録団体主催事業 2013年11月8日(金)～9日(土)

講演会&バザー 主催：おかやま女性国際交流会

講師：中村 恵さん
(国連UNHCR協会事業部シニアオフィサー)

**「難民問題の現場から
～今、世界で起きていること～」**

絶え間なく報道される世界の難民の様子を他人事ではなく、同じ時代を生きる私たちの問題として捉えてほしい、そのような思いから企画しました。

国連UNHCR協会の中村恵さんからは、本部勤務のときの上司である緒方貞子さんのエピソードを交えながら、世界の現状をお話いただきました。かつて難民受け入れ国であったシリアが、今では難民を多く生み出す側であること、わずか数か月で難民キャンプが溢れるばかりの状態になってしまうこと…。そういった中でも、たくましく生きる難民のみなさんの姿から



力をもらうとともに、緊急支援の必要性を強く感じた内容でした。



ワークショップ

主催：岡山市ジェンダー統計普及推進グループ
**「まちづくりに男女の視点を
紅一点じゃ、足りない！」**

市民、県民に岡山市および岡山県の男女共同参画推進状況を知ってもらうためには、身近な現状がどうなっているのか関心を持っていただくことが大切です。

今回は男女共同参画推進の根幹ともいえる「政策・方針決定過程への参画」について、いかに女性が少ないかという現実を、統計数値を用いて説明したところ、よく理解していただけたようです。また、男女共同参画の現状がはっきりとわかるジェンダー統計の整備が必要であることを再認識できました。

さらに、男女共同参画について大きく進展がみられないのはなぜか、ということについても参加者の率直な意見も伺って大変有意義な会となりました。



人形劇 主催：邑久ライブフォーラム

「人形劇で『防災』を学ぼう！」

瀬戸内市で活動する糸あやつり人形劇団「とつとこがえる」による防災啓発人形劇「おじいさんとおばあさんの避難物語」を上演。「避難準備情報」「避難勧告」「避難指示」の意味、いざというときに持ち出す避難リュックの中身などを、あやつり人形のおじいさんとおばあさんのやりとりで伝え、ほのぼのとした中にもしっかりと防災の大切さを訴えました。

人形劇のあとは「防災〇×クイズ」や「防災数え唄」など楽しみながら、防災について学べるプログラムが披露され、改めて防災意識を高めることができました。



手作り体験 主催：岡山地域ピーチの会

「新聞紙でエコバッグづくり」

交流サロンで気軽に参加できるイベントとして、新聞紙でつくるエコバッグの講習会を開きました。玉野市消費生活問題研究協議会のメンバーの方に指導いただき、新聞やカレンダーでのバッグづくりに挑戦。人気だったのはカラフルで綺麗な模様のカレンダーで作るバッグ。紙できていないとは思えないほどしっかりしていて、見た目もきれいなバッグに大満足!材料も糊などの接着剤があればOK。短時間で誰でも作れるとあって、飛び入り参加の方も多く、みなでおしゃべりをしながら楽しくエコバッグづくりにいそぎました。



カフェ 主催：NPO法人さんかくナビ

「ときめきカフェ」

ウィズセンター交流サロンにて、シフォンケーキと挽きたてコーヒーのセットを提供しました。カフェスタイルでの実施は今回が初めてだったため、多少心配でしたが、たくさんの方が訪れてくださり、盛況でした。さんかくナビの手づくりシフォンケーキを毎年楽しみにしてくださっている方もいて、今回もあっという間に完売。今回は対応できるスタッフが少なかったこともあり、少しお待たせしてしまったかもしれませんが、たくさんの方に喜んでいただけて良かったです。普段なかなか会えない方にも会えたり、とても充実した時間を過ごすことができました。



ウィズフェスティバル パネル展示

今年は登録団体8団体が活動紹介のパネルを展示しました。活動の様子を写真や文章でまとめ、主催する講演会やイベントのチラシ、会のリーフレット等を展示し、新規加入を募るなど、熱のこもった力作がそろいました。

また、ウィズセンター開館15年目を迎えた今年、第1回目からのウィズフェスティバルを情報誌記事で振り返る「ウィズフェスティバル15年のあゆみ」を展示しました。男女共同参画推進月間(11月)中、ウィズセンターを訪れた人たちは、足を止めて見入っていました。



【出展団体】

- ・岡山県交通安全母の会連合会
- ・岡山県退職女性教職員の会
- ・岡山県婦人問題懇話会
- ・(一財)岡山県母子寡婦福祉連合会
- ・おかやま女性国際交流会
- ・岡山女性フォーラム
- ・岡山友の会
- ・世界女性会議岡山連絡会

平成25年度 岡山県男女共同参画社会づくり表彰(県知事表彰)

平成25年11月9日(土)、平成25年度岡山県男女共同参画社会づくり表彰式が、きらめきプラザで行われました。

この表彰は、県内各地域において、男女共同参画社会づくりに積極的に取り組み、その功績が顕著であると認められ、今後も活躍が期待される個人及び事業者を表彰するもので、伊原木知事から個人3人と事業者1団体に表彰状と記念品が贈られました。

●個人の部(五十音順)

| 氏名及び主な功績等 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>いけがみ きよみ 池上 清美さん(倉敷市) プリティーウーマン事務局長 平成9年設立のプリティーウーマン(倉敷市男女共同参画推進センター登録団体)の事務局長として、女性問題の視点などを取り入れたFMくらしき市民制作番組の企画、運営を行うなど、地域の男女共同参画社会づくりに取り組むとともに、倉敷市男女共同参画審議会委員を務めるなど男女共同参画社会の推進に貢献</p> |
| <p>おかざき ふみよ 岡崎 文代さん(玉野市) 玉野市女性団体連絡協議会会長 玉野市男女共同参画推進審議会副会長として「第3次たまの男女共同参画プラン」の策定に尽力するとともに、玉野市女性団体連絡協議会の会長を務めるなど地域における男女共同参画の推進に貢献</p> |
| <p>はしもと せつこ 橋本 節子さん(美作市) 美作市男女共同参画審議会会長 平成18年から美作市男女共同参画審議会委員を務め、「美作市男女共同参画プラン」の策定に尽力するとともに、現在は会長として美作市の男女共同参画社会実現に取り組むなど男女共同参画の推進に貢献</p> |

●事業者の部

| 事業者名及び主な取組内容 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>中谷興運株式会社(倉敷市) 代表者 代表取締役社長 中谷 庄吾 さん 女性社員によるプロジェクトチーム「なでこプロジェクト」の提言に基づき、育児短時間勤務制度の期間延長や「出産・育児・介護ガイドブック」の作成など様々な取組を実施し、仕事と家庭の両立ができる環境づくりを進めている。また、技能職女性社員の採用など、女性の職域拡大にも積極的に取り組んでいる。</p> |



岡崎文代さん 橋本節子さん

中谷興運(株) 伊原木隆太 渡辺英気
中谷庄吾さん 岡山県知事 岡山県議会議長 池上清美さん

ワーク・ライフ・バランスの実現のために!!

男女が社会のあらゆる分野に参画し、活躍していくためには、一人ひとりが、仕事、家庭、地域活動、趣味や自己啓発などをバランスよく充実させ、自分の望むライフコースを選ぶことができるワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現が必要です。

県においても、ワーク・ライフ・バランスの考え方や意義を広め、社会的気運を盛り上げていくため、フォーラムなどを開催しています。

ワーク・ライフ・バランス推進フォーラム

2013年10月25日(金)



米Newsweek誌「21世紀のリーダー100人」に選ばれるなど、世界から注目を集める若手経営者として活躍され、内閣府男女共同参画会議議員も務めておられる家本賢太郎さん。自社での事例を交え、主に中小企業におけるワーク・ライフ・バランスの効果的な導入についてお話しいただきました。

講演 「ワーク・ライフ・バランスの効果的な導入と環境作り」

講師 いえもと けんたろう
家本 賢太郎さん (株式会社クララオンライン代表取締役社長)

車椅子生活を乗り越え15歳で起業

中学2年生の時、脳腫瘍の摘出後に車椅子生活となり、医師から生涯車椅子生活の宣告を受けました。中学卒業後に、小学生の頃から興味を持っていたインターネット関係の会社を設立。その後、奇跡的に回復し20歳で障害者手帳を返納することができました。

ライフステージに応じたワーク・ライフ・バランスを

私は23歳で第1子をもうけました。育児により、身に付く人間的なスキルや経験もあると感じていますが、以前、会社でワーク・ライフ・バランスに取り組んだ時、出産、育児だけにテーマを絞ったため、うまくいきませんでした。年齢や生活に応じて求められる制度は異なることに気づき、従業員が本当に求めるワーク・ライフ・バランスの取り組みはどうあるべきか、利害の絡まない第三者(NPO法人)に委ね、調整しました。また、大企業のやり方をそのまま取り入れるのではなく、中小企業に合ったやり方で、できることから取り組んでいけば良いことに気づいたのです。

経営者の熱意とリーダーシップで!

車椅子生活の経験により、障害の有無や性別、宗教などで人間の価値は変わらない、むしろ、色々な経験を持つ人がいる方が、新しい発想が生まれたり、変化に対応する力があると気づきました。これは、企業の持続的な成長を考える上で重要なことです。また、仕事と生活とのバランスをとるためには、時間効率を意識した働き方に変えていくことも必要です。ワーク・ライフ・バランスは社会全体で取り組む課題であり、10年、20年と取り組んでこそ結果がでるものだと思います。そこで求められることは社員の理解と協力と、なによりも経営者の信念・リーダーシップだと言えるでしょう。

男女共同参画ゼミナール 公開講座

2013年7月26日(金)

ワーク・ライフ・バランスの実現のために、「自らの『生き方』や『働き方』をデザインしてみませんか?」と軽快で分かりやすいお話しでワーク・ライフ・バランスを学ぶことができました。

講演 「ワーク・ライフ・バランスで実現する多様な生き方、暮らし方」

講師 はぎわら
萩原 なつ子さん (立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科 教授)



パラレルキャリアの勧め ~複数の顔を持つ時代がやってきた!~

40代を中心に「パラレルキャリア」を実践する人が目立ってきています。これからは、今の仕事と平行して他にもう一つ別の仕事を持つたり社会的な活動に参加するなど、複数の顔、複数の名刺を持つことを勧めています。地域活動への参加や、学びの場を持つなど私たちはいろいろな顔を持つことで、自分を見つめ直し、新しい「生き方」「働き方」の発見につなげていくことができます。

ノット(結び目)ワーキング ~まずは自分がつながること!新しく「人」と「人」を結ぶには?~

多様な組織や人がつながる。「ゆるやかなネットワーク」が、災害時など何か起きた時の「ノットワーキング(結び目づくり)」につながります。ゆるやかにつながっていることが大切。普段から、地域活動などいろいろな所に顔を出し、多様で、異種・異質のつながりを創っておくことが大事なのです。

パニックゾーン ~思いきってチャレンジしてみよう!不安の向こうにあるものは...~

チャレンジの段階には3重の輪があり、その中心に「コンフォート(快適な)ゾーン」があります。このまま何もしないでもいいという心地良い場所ですが、そこにいる限り何も起こらない。もうひとつ外の輪が「パニックゾーン」新しいことにチャレンジするということです。すると、一歩踏み出すことで一番外の輪「グロウス(成長)ゾーン」になり、「知らなかったこと」を「知ったこと」で何かが変化するのです。今までの固定観念から、意識的に何かに関心を持って、ターニングポイントを探していくことがワーク・ライフ・バランスの実現には大切、ひとつ「働き方」「生き方」「学び方」を変えてみませんか?そのために「パニックゾーン」に飛び込むことが必要なのです。



産婦人科医として生殖医療を専門に取り組んできた経験をもとに、最近話題となっている「卵子の老化」を中心に生涯を通じた女性の健康支援についてお話しいただきました。

講演 「生涯を通じた女性の健康支援 ～「卵子の老化」から社会を考える～」

講師 なかつか みきや
中塚 幹也さん (岡山大学大学院保健学研究科 教授)

卵巣の気になる話

環境ホルモン^(※1)などは、子宮や卵巣へ影響します。香港では汚染物質や食品・食器などに含まれる化学物質の影響で生殖器のがんが増加すると予測されています。

米国女優であるアンジェリーナ・ジョリーさんが予防的に乳腺の切除をしたことが話題になりました。がん抑制遺伝子BRCA1やBRCA2^(※2)に変異があると、乳がんだけではなく卵巣がんリスクも高くなります。乳がんの場合とは異なり、卵巣がんのリスク回避のために卵巣をとってしまうと、卵子がなくなり子どもを持ってなくなるとともに、女性ホルモンの分泌がなくなり更年期様の症状がでることになります。

子どもが欲しいという切実な思い

近年、不妊治療に関する種々の話題がクローズアップされるようになりました。卵子の老化は、個人差はあるものの誰にでも起こります。閉経前後になっても子どもを欲しいと思う女性でも、第三者の卵子提供による体外受精で妊娠・出産が可能な時代となりました。海外で卵子提供を受けて出産する女性も増加しており、その女性の平均年齢は45歳、最高齢は58歳と報道されています。9割はハイリスク妊産婦で、手放しで喜べる状況ではありません。

「出産」も含めたキャリア設計を

がん治療で卵子や精子を失ってしまう人、あるいは国によっては戦場へ行く兵士のために「精子や卵子の凍結保存」という方法が取られます。女性がキャリアを積むために未婚のまま卵子を凍結保存しておくといった例も増えてきています。私達の全国調査でも、国内でも施行している施設があることがわかりました。水面下で行われることには問題があり、何らかのガイドラインの作成や法制化が必要です。

また、私達の調査では、「卵子の老化」を知らず、「50歳以上でも自然に妊娠できる」と考える大学生が3割以上いました。不妊治療には費用もかかり、仕事を犠牲にしなければなりません。「妊娠・出産」について正しい知識を身につけたうえで、真剣に考えて自分自身のキャリアや人生の設計をしてほしいと思います。中学生や高校生には性教育の中でそのことも伝えていくようにしています。

※1 外因性内分泌攪乱化学物質。動物の生体内に取り込まれた場合に、本来、その生体内で営まれる正常なホルモン作用に影響を与える外因性の物質。

※2 BRCA1やBRCA2は、がん抑制遺伝子の一種であり、その変異により遺伝子が不安定となり乳がんや卵巣がんを引き起こす。このような遺伝的な要因で発症する乳がんや卵巣がんは、全体の5～10%を占めるとされる。

成長戦略の柱と位置づけられている「女性の活用」。その現状と課題、ベネッセでの取り組み等、先進的な事例をお話しいただきました。

講演 「女性が活躍する日本へ ～女性活用の現状と課題～」

講師 ことら のりこ
後藤 憲子さん (ベネッセ教育総合研究所 次世代育成研究室 室長)



「女性活用」から「ダイバーシティ^(※1)」へ

女性の活躍は成長戦略の柱と位置づけられています。しかしながら、世界経済フォーラムが発表した2012年のGGI(ジェンダーギャップ指数)^(※2)は135カ国中101位であり、日本の女性のポジションは決して高いとはいえません。国際機関からは「日本政府は女性を活用すべき」という提言が出されていますし、国際的にはすでに「女性活用」を超えた「ダイバーシティ」が主軸となっています。

女性が管理職から遠ざかる理由

女性活用の課題を「管理職を増やす」という観点から考えてみると、そもそも総合職に女性が少ない上に妊娠・出産・子育てなどで、仕事をしている女性の約65%が辞めていくという状況があります。また、責任ある仕事を任せられず、意欲を失って退職ということもある反面、女性は生真面目ゆえ、自分には知識や経験が足りないから管理職にはなれないと思うところがあり、それが管理職を目指すときの壁になっています。

ベネッセの取組み ～「ワーク・ライフ・マネジメント」へ～

ベネッセでは、創業社長が女性活用に積極的だったこともあり、もともと社員の半数以上を女性が占めており、両立支援として、法律制定以前から制度を整えてきました。1986年に女子再雇用制度を導入、1995年には新育児休業制度の再設定で休職前の職場に復帰する考え方を徹底し、働き続ける女性が増えてきました。男性が育休を取りやすいように男性の働き方へのアプローチも努力しています。自立した社員が自らのワークライフをマネジメントできるよう「ワーク・ライフ・バランス」ではなく、「ワーク・ライフ・マネジメント」という考え方で支援しています。

※1 多様性。性別や国籍、年齢などに問わず、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことをダイバーシティ社会という。

※2 各国内の男女間の格差を数値化しランク付けしたもので、経済分野、教育分野、保健分野及び政治分野のデータから算出される。なお、2013年10月に発表されたものでは、日本は136カ国中105位となっている。



カウンセリングや講演活動等でDV被害など女性が抱える様々な問題の解決を願い、被害者をサポートする活動してきた事例をもとに、「DVは人権問題である」ことをお話しいただきました。

講演 「人権問題としてのDV ～被害者を追い詰めないために～」

講師 加藤伊都子さん (フェミニストカウンセリング フェミニストカウンセラー)

人権侵害行為としてのDV ～被害者から奪っている権利～

DVの本質はさまざまな暴力による「支配とコントロール」です。暴力による日常的な恐怖感は『個人として尊重される権利』『安全に暮らす権利』『自己決定の権利』などを奪い、被害者を追い詰めます。この支配とコントロールから抜け出せないのは女性の責任ではありません。女性個人の意志や努力では変えることのできない、社会構造の問題です。夫婦あるいは世帯を単位とした社会制度にも一因があります。男性が優位で女性が従属という構造的力関係の中で、暴力を避けようとして、女性はさらに性別役割に追い込まれていきます。

隠されてきたDV被害 ～男性の言い分が通るジェンダー格差社会～

配偶者からの暴力は少数の女性の問題ではありません。10人に1人の女性が日常的に暴力被害を受け、20人に1人の女性が命の危険を感じています。7人に1人の女性が交際相手からの暴力被害を経験、そのうち5人に1人が命の危険を感じています。また、20歳代、30歳代の女性では、4人に1人が交際相手からの暴力を経験しています。警察庁の統計を見ると3日に1人の割合で、女性は夫に殺されています。夫が働き家族を養い、妻が家庭を守るとされる社会では、妻よりも夫の社会的評価が高く、夫の発言に重さが置かれます。そのために夫の言い分が聞き入れられやすく、DVは隠されてきました。

被害者を追い詰めないために ～私たちが取り組んでいくこと～

『暴力をふるわれるのは、女性側にも問題がある』『暴力をふるうような男性でも、子どもには父親が必要だ』などの「DV神話」や家庭にまつわる社会通念を見直すことが必要です。また、家庭内にDVがあることそのものが子どもへの虐待になります。DVを許さないという意識を持ち、DV問題に関心を持つことが大事です。

ジェンダー論とメディア・リテラシーを研究しておられる小川真知子さんに、CMに潜む問題点や、ジェンダーの視点(*)でメディアと上手に付き合う方法についてお話しいただき、後半はCMを分析するワークショップが行われました。

講演 「変わる社会、メディアと男女共同参画 ～CMを見ながら考えてみませんか～」

講師 小川真知子さん (コマーシャルの中の男女役割を問い直す会 世話人)



メディア・リテラシーとは？ ～情報の送り手は誰？～

30年前「女性学」に出会い、自分が求めていたものはこれだ！と思いました。その後社会を変えるにはメディアと批判的につきあう視点が重要と思い、今に至ります。メディア・リテラシーとは情報を読み解き、活用することです。メディアに付随する広告は無意識の内に多くの情報を刷り込んでいくので、情報をそのまま信じるのではなく批判的に判断・選択し自ら情報を発信する能力が必要になります。

放送局や新聞社で働く女性の割合は少なく、主に情報を発信しているのは、都市に在住する20～60歳代の働き盛りの男性です。その結果さまざまな人権問題の報道に偏りが生じたり、ジェンダー問題の根幹である「男は仕事、女は家事・育児」といった男女役割を前提にした報道が多いのが現状です。これを解決するには多くの女性がメディアにおいて、決定権を持つ立場になることが必要です。新聞社、インターネットなどの情報はクレジット(情報の出所)を確認し、多様なメディアから情報を収集、比較することでメディア・リテラシーを養うことができます。

CMを見ながらのワークショップ

「男女共同参画社会を実現する」という視点で、CMに描かれた女性と男性の映像を過去と現在で比較しました。グループでの話し合いの結果発表では、「女性が多く登場した洗剤などのCMには、時代の変化とともに男性も登場するようになった」、「子ども向けCMでは、男の子向けと女の子向けではそれぞれの『らしさ』が強調されたCMとなっている」などの意見が挙げられました。

社会を変えるために今、わたしたちにできること

メディアは変えることができます。一人ひとりが情報を読み解く力を養い「これはおかしい」と思えば発信元に伝え「この表現はいいね」と感じれば賛成の声を届けることで、メディアとよりよい関係を築くことができます。ミニコミ誌やブログ等自らの気づきを発信することも大切です。

*「社会的文化的に形成された性別」(ジェンダー)が性差別、性別による固定的役割分担、偏見等につながっている場合もあり、これらが社会的に作られたものであることを意識していこうとする視点。

相談コーナーからひとりで悩まないで…

ウィズセンターでは、男女を問わず、あらゆる悩みに対応した相談を行っています。
例えば、自らの生き方のこと、家族や夫婦のこと、健康のこと、職場や友人との人間関係、DV被害など多岐にわたります。

相談は、電話相談と面接相談があります。

電話相談

電話の場合は匿名でのご相談もお受けしています。自分一人で抱えていたことを誰かに話すことで、気持ちが軽くなったり、整理されてきます。電話相談だけでは解決の糸口をつかむことが難しい問題や面接をご希望される場合は面接相談をご案内しています。

面接相談

面接相談では、時間をかけて詳しい状況や抱えている問題についてお話を伺います。相談員と一緒にそれらを整理し、何が一番の問題で、それを解決するにはどうしたらよいかを順序立てて考えます。悩んでいるときは、一つの問題だけでなく、問題の背景となっている状況や細々とした事柄などが複雑に絡み合っている場合が多いものです。そのようなときは、自分だけで考えていても空回りをしてしまいます。一つずつひもついて行く手がかりを見つけると、前に進んでいくことができるかも知れません。

相談室という安心できる場所で自分自身と向き合い、自らの力で問題解決の糸口を見つける。このことがこれからの生活を支える力になると思います。

なお、予約制で、「**弁護士による法律相談**」や「**医師によるこころの相談**」も行っています。このほかにも、男性相談員（臨床心理士）による「**男性のための電話相談**」も行っています。

相談の内容が外にもれることは決してありません。

もし、何か一人で抱えて困っておられるなら、お電話をください。

相談専用の電話番号及び受付時間は裏表紙をご覧ください。



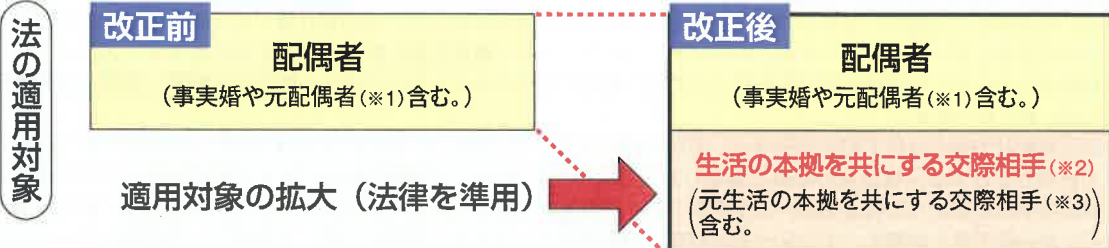
DV防止法改正

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」が改正されました

「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」が改正され、平成26年1月3日に施行されました。

今回の改正では、交際相手からの暴力が社会的に問題となっており、被害者やその親族が殺害されるという痛ましい事件が生じていることから、法の適用対象が拡大され、生活の本拠を共にする交際相手からの暴力及びその被害者についても、法の適用対象とされるとともに、法律の題名が「**配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律**」に改められました。（下図参照）

【図】法の適用対象の拡大



※1 離婚前に暴力を受け、離婚後も引き続き暴力を受ける場合

※2 婚姻関係における共同生活に類する共同生活を営んでいないものを除く。

※3 生活の本拠を共にする交際関係を解消する前に暴力を受け、解消後も引き続き暴力を受ける場合



今号の表紙

デザイン：あかざりほ
赤木里穂さん（専門学校岡山情報ビジネス学院 CGデザイン学科）

（作品のコンセプト）

桜の花が咲く季節の発行ということで、モチーフには桜を使いました。全体的に淡い色を使い、文字が目立つように文字の彩度を上げました。

ウィズライブラリー ～新着図書より～



『わたしはマララ』

・ユスフザイ・マララ著
金原瑞人 訳
・学研パブリッシング
(2013年)

「女の子にも教育を、学校へ行く権利を」と訴えつづけ、イスラム武装勢力に銃撃された16歳少女の手記。



『陽のあたる家 ～生活保護に 支えられて～』

・さいきまこ 著
・秋田書店
(2013年)

ささやかだけれど幸せな生活を送っていた家庭が突然、夫の病で収入が激減。「貧困」「生活保護」について考えるコミック。



『これからの暮らし方』

・西村玲子 ほか
・エクスナレッジ
(2013年)

心地よく生きるための「衣」「食」「住」「緑」「美」を5人の素敵な女性のライフスタイルに学ぶ、生き方ヒント集。



『共に生きるということ』

・緒方貞子 著
・PHP研究所
(2013年)

人道支援・復興支援の現場で数々の難局を乗り越えてきた著者が、その信念、平和を築く哲学、国際社会での日本の役割などを語る。

みなさんのウィズセンターです。どうぞ、ご活用ください！

◎出前講座のご案内

ウィズセンターでは、県内の各団体（地域コミュニティ、女性会、老人会、PTAなど）や学校、職場などで男女共同参画について学んでみたい方々を対象に、出前講座を行っています。講師は、センター情報交流員等で謝金、旅費、資料代などは不要です。

講座の内容はDVDなどを見ていただき、楽しく、わかりやすいものになっています。ウィズセンターの出前講座をぜひ、ご利用ください。

◎講師の情報を提供します

男女共同参画に取り組んでおられる方々を、講座・講演会等の講師として登録しています。

講演会、研修会の講師をお探しの時は、ご相談ください。

◎図書・DVD等の貸出をしています。

「情報コーナー」では、男性・女性の生き方に関するさまざまな図書やDVDをはじめ、男女共同参画についての資料などの貸出をしています。

| 種別 | 貸出数及び貸出期間 |
|---------|-----------|
| 図書 | 一人5冊まで2週間 |
| DVD・ビデオ | 一人2本まで1週間 |

※予約が入っていない場合は1回に限り貸出期間を延長できます。図書は2週間、DVD・ビデオは1週間延長します。



新着図書コーナー



DVDコーナー

◎会議室・交流サロンの利用

ウィズセンターでは、男女共同参画に関する活動を行っている団体等に、会議室や交流サロンの貸出を行っています。

予約申込みは利用しようとする月の2ヶ月前の月の初日から。（登録団体においては3ヶ月前の初日から。）



会議室



交流サロン

| | | |
|---------------|---------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 会議室 (有料) | 学校形式：最大50人 会議形式：最大40人 椅子のみ：約80人 | 【付属設備】 有 料：液晶プロジェクター、ブルーレイディスクプレーヤー 無 料：スクリーン、ホワイトボード、マイク |
| 交流サロン (無料) | 8人ブース×2 最大16人 | 小会議、打ち合わせ、グループの交流などにご利用ください。 |

インフォメーション

平成26年度開講予定講座のご案内

男女共同参画ゼミナール 6月下旬開催予定

男女共同参画の視点を持った地域リーダーを養成するための連続講座を開催します。

キャリアアップ講座

もう一度働きたい「あなた」、
まず一步踏み出してみませんか

女性のチャレンジ支援事業として、結婚・出産・育児・介護等といったん仕事を中断し、再就職を希望する女性を対象にエクセル3級程度のパソコン基本操作や就業に関する知識等を習得する講座を開催します。(受講料無料、但し、教材費、検定受験料は実費負担。合計約1万円)

| 実施期間(予定) | 開催地 | 受付期間(予定) |
|------------|-----|-------------|
| 5月下旬～7月上旬 | 岡山市 | 4月下旬～5月上旬 |
| 6月中旬～7月中旬 | 津山市 | 5月上旬～5月下旬 |
| 9月上旬～10月中旬 | 倉敷市 | 8月上旬～8月下旬 |
| 1月中旬～2月下旬 | 津山市 | 12月上旬～12月中旬 |

映画のつどい

3月～5月の上映予定

◇3月13日(木)
「恋谷橋」



◇4月24日(木)
「私の頭の中の消しゴム」

◇5月22日(木)
「人生、ここにあり!」

「映画のつどい」はお申込みなしでご参加いただけます。当日の開始時刻(いずれも13時30分)までに、ウイズセンター会議室へお越しください。ご参加をお待ちしています。

※やむを得ず上映作品が変更になることがありますので、ご了承ください。



ウイズセンターは**土・日曜日**も開館しています。
お気軽に、お越しください。

ウイズセンターはこんなところ

開館時間 火～土曜日 / 9:30～18:00
日曜日 / 9:30～17:00

休業日 月曜日・祝日・年末年始

情報提供 ●図書・DVD・ビデオ等の貸出
●人材情報・各種団体の活動情報の提供
●男女共同参画に関する資料の閲覧

各種講座 ●男女共同参画に関する各種講座の開催

相談 ●相談員による一般相談
火～土曜日(祝日を除く) 9:30～17:00
(受付は16:30まで)
●特別相談(予約制)
弁護士による法律相談 原則第2・4金曜日
医師によるこころの相談 原則第1・3金曜日
●相談専用電話 ☎086-235-3310
●男性相談員による男性のための電話相談
原則第2金曜日 17:00～20:00
男性相談専用電話 ☎086-221-1270

就業支援 ●就業に役立つ講座の実施
●就業に関する情報の提供

交流 ●各種団体へ活動・交流の場と機会を提供

広報 ●情報誌の発行(年2回)
●メールマガジンの配信(随時)



きらめきプラザ



ウイズセンター



ウイズセンターへお越しの際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

男女共同参画に関する投稿(100字以内)をお待ちしています。選考の上、情報誌「With」等で紹介させていただきます。お名前とご連絡先電話番号を明記の上、郵送、FAX、またはEメールで、下記宛先までお送りください。

ウイズ64号 編集・発行/岡山県男女共同参画推進センター(ウイズセンター)
〒700-0807 岡山市北区南方2丁目13-1
きらめきプラザ(県総合福祉・ボランティア・NPO会館)6階
TEL(086)235-3307(代) FAX(086)235-3306
Eメール: danjo@pref.okayama.lg.jp

ホームページ
<http://www.pref.okayama.jp/>
岡山県トップページ
▷組織で探す▷県民生活部▷男女共同参画推進センター(ウイズセンター)

ウイズセンター 検索



三紙記者100%再生紙を使用しています